川西町フレンドリープラザ
since 1994
劇場・川西町立図書館・遅筆堂文庫

PLA's

2021年 夏 No.72

https://www.kawanishi-fplaza.com

特集 大竹しのぶが語る
「井上芝居の想い出」とは

聞く 遅筆堂文庫研究員
井上恒(ひさし)さんに聞く

Waku Waku エッセイ 加藤光広
映画「奇跡のこどもたち」で広がる人の縁

《コラム》
私のお気に入り ~My favorite things~

吉里吉里忌2021
リポート

大竹しのぶが語る「井上芝居の想い出」とは

2010年に亡くなった井上ひさしさんをしのび、その偉功を語り継ぐ「吉里吉里忌2021」が、4月11日に開催されました。7回目となった今回のゲストは、多くの井上芝居に出演した女優の大竹しのぶさん、聞き手は古屋和雄さん（元NHKエグゼクティブアナウンサー）。

「太鼓たたいて 笛ふいて」の劇中歌を歌う大竹しのぶさん、ピアノは朴勝哲（パク スンチョル）さん

文庫堂則の朗読で開会

吉里吉里忌は、遅筆堂文庫堂則の朗読で開幕しました。文庫開設に込められた井上ひさしさんの意志を町の若い人に受け継いでもらおうという趣旨で、町内の高校生が朗読するのは2回目。今年は、佐藤詩央里さん（県立米沢興譲館高校3年）に朗読していただきました。佐藤さんはプラザ子ども演劇教室で演劇を学んでいたこともあって、大きく、はっきりと堂則の言葉を客席に伝えてくれました。

大きな拍手で登場した大竹しのぶさんが語るのは「井上芝居の想い出」。古屋和雄さんのインタビューに答え、数々のエピソードを披露してくれました。大竹さんがこまつ座の公演でフレンドリープラザの舞台に立ったのは、2004年5月の『太鼓たたいて笛ふいて』。作家林芙美子の半生を描いたこの芝居、当初は5月7日から3日間で3ステージの予定でしたが、急きょ追加公演を加えて計4ステージとなった記念碑的公演です。このときの思い出を大竹さんは、「カーテンコールの際に、立ち上がって役者に向かって深々とおじぎをしたお客さんがいたのが印象的でした」と話しました。

初めて出演した井上芝居は「もとの黙阿弥」（1983年）。稽古が始まっても台本がなかったので、稽古場でずっと台本の出来上がりを待っていたとか。「台本が一枚も来なかった日もあり、最初は皆さん、さほど気にしていなかったのですが、それが続くと次第に不安になってきて、しまいには怒り出す人もいました」。大竹さんは、台本の続きが稽古場に届くのを「号外が来た」と表現し、「新しい話が井上さんの特徴的な文字を通して、私の中に入ってくるのがとても幸せでした」とそのときの嬉しさを語りました。同時に「このすばらしい言葉を、芝居を通して観客に伝えられる仕事が役者なのだ」と役者としての幸せを日々噛みしめていたといいます。

大竹しのぶ（女優）

1957年生。東京都出身。
1975年映画「青春の門―筑豊編―」ヒロイン役で本格的デビュー。同年、朝の連続ドラマ小説「水色の時」に出演し、国民的ヒロインとなる。以降、気鋭の舞台演出家、映画監督の作品には欠かせない女優として映画、舞台、TVドラマ、音楽等ジャンルにとらわれず才能を発揮し、話題作に相次いで出演。
井上作品の舞台出演は、『太鼓たたいて笛吹いて』、『ロマンス』、『日の浦姫物語』。

ト書きにも感じた奥深さ

井上芝居の奥深さは、台詞だけでなくト書きにも表れているといいます。『太鼓たたいて笛ふいて』の終盤で、終戦後、レイテ島で戦死したはずの元行商人の時男がボロボロになって帰って来たところに芙美子が「おかえりなさい」と声をかけるシーン。ト書きには「全世界の愛を込めて」と書かれてあります。これを受けて役者は「おかえりなさい」と一言。役者はその一言に温かさ、幸せを伝え、表現しなければなりません。大竹さんは、ト書きの奥深さと、それを伝える役者の表現力が芝居の感動を生みだす要素の1つであることがわかったといいます。

特に印象に残っている台詞は、林芙美子が最後にいう言葉。「休んでいるひまはないんだわ。書かなくては。書かなくてはね。」を挙げました。この台詞は、井上さんが自分自身に対して発した言葉でもあったと大竹さんは解釈し、「この場面は、自分が井上さんになったつもりで演じていた」と明かしました。最後に大竹さんは、「劇場で生のものに触れることで伝わる感動を、明日への活力にしてもらいたい」とメッセージを残し、トークをしめくくりました。

動画で川西中校歌を披露

後半は、朴勝哲さんのピアノ伴奏で、「太鼓たたいて笛ふいて」の劇中歌などが披露されました。ユーモアにあふれたトークと朗読、そして歌を通して井上芝居の魅力が存分に語られた、とても濃密な二時間でした。

閉会行事の最後は、井上ひさしさんが作詞した川西中学校校歌の披露です。川西中学校生徒会のみなさんと先生たちによる合唱シーンの動画が映し出されました。

最後に挨拶にたった井上ユリさん（井上ひさし氏夫人）は、コロナ禍が収まらない中、出席された多くの方々に感謝の言葉を述べ、「来年こそ、吉里吉里忌と生活者大学校が開催されることを期待し、またお会いしましょう」と締めくくりました。

大竹しのぶさんと聞き手の古屋和雄さん

「吉里吉里忌」総合司会 古屋和雄さんに聞く

「吉里吉里忌」で訪れるたびに思い出すのは1991年8月、井上ひさしさんにNHKビジネスマンのための「緑陰講座」スペシャルという番組でインタビューした時のことです。会場も川西町でした。まだ川西町フレンドリープラザもありません。農業や憲法など5つのテーマを50分ずつ、二日間で撮りきるという企画でした。それ以降井上さんには多くのことを教えていただきました。井上さん亡きあとは「吉里吉里忌」の毎回の多彩なゲストの皆さんからも同じです。

今回のゲストは、大竹しのぶさん。聞き手の役を仰せつかりました。井上さんの書く言葉と大竹さんが語る言葉が共鳴・増幅しあって観る人に感動を与える。そんなことを感じました。途中、大竹さんは井上さんが残した『子どもにつたえる日本国憲法』から抜粋して朗読してくれました。これまた、心に沁みます。井上さんの思いが伝わってきます。

憲法を大事にしない日本に愛想が尽きたと独立することから始まる『吉里吉里人』。そこで井上さんが描いた、武器ではなく平和に医学立国をめざすという理想を、若い世代が感じてしっかり受け止めてくれることを期待しています。（談）

遅筆堂文庫研究員

井上恒（ひさし）さんに聞く

この4月、札幌から川西町に移住し、地域おこし協力隊（遅筆堂文庫研究員）として勤務している井上恒（ひさし）さん。井上ひさしとの運命的な出会い、そして「井上ひさし」と「遅筆堂文庫」の魅力とは。

――今回なぜ遅筆堂文庫で働くことになったのですか。

「ひょっこりひょうたん島」の放送で、最後に自分と同じ名前が出てくるのを見て知りました。小学生で『ブンとフン』にはまって、そこから「井上ひさし」の書く物と、自分の読書体験が重なっていきました。当時井上さんは色んな雑誌に連載してたので、小遣いが足りず立ち読みしたりしてました。「直木賞」という言葉を知ったのも「井上ひさし」からでした。

社会人になり、家庭を持ったりして一時期、井上作品から遠ざかっていたんです。2010年に井上さんが亡くなったとニュースで知ってから、まだ読み終わってない作品の続きが気になり、一から読み返しました。その時から読書記録をつけはじめ、それをまとめたものを井上ユリさん（井上ひさし夫人）や遅筆堂文庫の阿部さん、遠藤さんに見てもらう機会があったんです。それを今後、資料として活用しようという話になり、地域おこし協力隊として、遅筆堂文庫研究員にならないかと誘われました。願ってもない幸運でした。

――遅筆堂文庫の魅力はどこでしょうか？

圧倒的な蔵書の量です。貸出可能な小説だけ見ても、圧倒的に多いと思います。貸出不可の貴重な資料でも館内で自由に手にとって読むことができる。地方の図書館ではありえない。全国的に見てもすごいです。

館全体で言えば、劇場が併設してあるところですね。ロビーもあるし、人が集まれる場所があるのはとても良いと思います。札幌では舞台公演自体が少なくて、こまつ座の作品もそんなに見る機会に恵まれなかったんですが、この規模の町にこんなに人が集まれる場所があるというのは魅力の一つです。

――井上作品の好きなところ、好きな作品は何ですか？

〝言葉遊び〟と〝笑い〟です。一般には社会的発言が注目されることが多いと思うのですが、私はもっとバカバカしい（褒め言葉）井上作品を広めたいと思ってます。

一番好きな作品は『花石物語』（文春文庫）です。これは〝かまいし〟を〝はないし〟にもじっていて、バカバカしくて笑える青春小説です。

まだ井上作品を読んだことのない人や一度読んでダメだった人にも、ぜひこの作品や『おれたちと大砲』（ちくま文庫）から読んでみることをおすすめします。

――研究員としての「研究テーマ」は何ですか？

「井上ひさし」の著作目録をできるだけ正確に作り上げることと、「井上ひさし」に関する文献目録をできるだけ正確に作り上げることです。それがあれば、若い読者や研究者の役に立つと思います。「できるだけ」という表現にしているのは、未完成の作品もあり、全貌は全く見えないからです。もう今から任期の三年間では無理なような気がしています。（笑）

――「井上ひさし」の他に好きな作家は？

宮沢賢治です。宮沢賢治を好きという点も実は「井上ひさし」との共通点ですね。あとはチェーホフです。若い時は、ドフトエフスキーやトルストイのような長ったらしい小説が好きで、大学ではロシア文学を専攻しました。その流れで就職もロシア（当時はソ連）の本を輸入販売する会社に勤めたんです。年に1～2回モスクワまで買い付けに行くことがあり、実は米原万里（ロシア語通訳・翻訳家）さんとも会ったこともあるんです。

――最後に井上恒さんにとって「井上ひさし」とは？

三度の飯と一緒ですね。生活の一部で、そこにあるのが、そこにいるのが当たり前です。

（インタビュー・構成　にしな）

profile

井上　恒（いのうえ　ひさし）

1960年岩手県盛岡市生まれ、札幌でほぼ40年暮したのち、東北人に復帰しました。
ジョギングのあとのビールのために生きている。単身赴任。ただし愛犬ソーニャと一緒。

Planning

現代劇「グッドピープル」公演決定!!

2021年10月23日㊏　14:00開演

先行発売・一般発売は、決まり次第お知らせします。

作：デビッド・リンゼイ＝アベアー／演出鵜山仁

日本の演劇界を牽引する人気演出家の一人、鵜山がアベアーの描く“普通の人々”の営みをどう立ち上げるのか…乞うご期待！

STORY マーギーは、マサチューセッツ州のサウスボストンに住む中年のシングルマザー。1ドルショップのレジ係として働きながら、早産により障害を持って生まれた30代の娘ジョイスを養っている。そんなある日、遅刻の多さから勤め先をクビになってしまったマーギー。突如収入が絶たれ、途方に暮れる彼女は、ジョイスの面倒を見てもらっているアパートの大家ドッティーと高校の同級生ジーンに相談を持ち掛ける。するとジーンから、高校時代の恋人マイクが医師として町に戻って来ていることを知らされる。意を決したマーギーは、仕事を紹介してもらおうとマイクに会いに行くが…。

マーギー 戸田恵子

ケイト サヘル・ローズ

ドッティー 木村有里

ジーン 阿知波悟美

スティーヴィー 小泉駿也

マイク 長谷川初範

Library

サトシンさん絵本ライブ

絵本の販売、サイン会もあるよ！

参加費 500円《要予約》

2021年6月13日㊐

時間◆10:30～12:00（開場10:00）
対象◆幼児～小学校中学年の親子
会場◆川西町フレンドリープラザ
定員◆100名（親子50組程度）
◎定員になり次第締め切ります　◎大人のみでの参加も大歓迎！

作・サトシン（小学館）

作・サトシン／絵・ドーリー（主婦の友社）

作・サトシン／絵・松成 真理子（アリス館）

作・サトシン／絵・西村敏雄（文溪堂）

作・サトシン／絵・西村敏雄（PHP 研究所）

作・サトシン／絵・おくはらゆめ（教育画劇）

作・サトシン／絵・よしながこうたく（講談社）

Vol.26

大人のための **夜の図書館** **7月14日㊌**
「ハーブの魅力（仮）」
会場◆川西町立図書館（閉館後）
時間◆19:00から
【コーディネーター】江本牧子さん

Waku Waku エッセイ

映画「奇跡の子どもたち」で広がる人の縁

加藤　光広

映画「奇跡の子どもたち」が、この川西町フレンドリープラザで3年前に上映された際には、４００名を超える方々にお越しいただきありがとうございました。

ご覧になっていない方のために映画の内容を紹介しますと、ＡＡＤＣ欠損症という生まれつき脳内の酵素（ＡＡＤＣ）がないために思い通りに体を動かせず、寝たきりで過ごさなければならない病気の子どもたちと家族が患者会を作って海外と交流し、遺伝子治療を実現するまでの10年間のドキュメンタリー映画です。

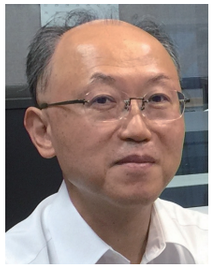
そのような病気はたくさんありますが、ＡＤＣ欠損症はとてもまれで、当初国内では３人、全世界でも数十人しかみつかっていませんでした。３人のうち２人（兄妹）の主治医をしていた関係で、家族会の支援に携わらせていただきました。遺伝的に失われた酵素を脳内でふたたび作ることができるようになれば神経症状が良くなることが予想されましたので、はじめから遺伝子治療をめざしての活動が始まったのです。

ただ、医療関係者でもほとんど知られていない病気でしたので、まずは国内の患者さんを見つけるために、「小児神経伝達物資病研究会」を設立して全国から集まった小児神経科医に患者さんの症状を実際にみてもらいました。また厚生労働省の研究班で全国調査を行い、２０１５年に自治医科大学でついに遺伝子治療を行うことができました。その後の症状の改善は予想以上でした。

映画（稲塚秀孝監督）は第59回科学技術映像祭内閣総理大臣賞およびファーウェイ・ジャパン賞を受賞（ＮＨＫスペシャル「人体」「ディープオーシャン」などを上回る評価！）し、山形テレビ制作の「ＹＴＳスペシャル希望の一滴～希少難病に光！ここまで来た遺伝子治療～」（庄司勉プロデューサー）は第13回日本放送文化大賞の準グランプリ（民放テレビ全番組の年間二位！）を受賞しました。日本でもっとも小さい家族会がもっとも大きな成果を収めたのです。

映画「奇跡の子どもたち」にかかわる人たちは、さらに本人たちもおどろくような縁でつながっていきます。その大きな仕掛けは、川西町という舞台でした。詳細は省きますが、そのかなめとなったのが、三菱鉛筆と寒河江善秋氏です。

寒河江善秋氏は川西町吉島出身の社会活動家で著作も多数あり、青年団や青年海外協力隊などの源流を作った方です。50歳前後で仕事をしながらも遊びに生きて隠遁する「半遁」を提唱し実践しました。井上ひさし氏に加えて郷土の偉人を教えてくれた「奇跡の子どもたち」は、新たな誇りを与えてくれました。高３で『吉里吉里人』を読んでから井上ひさし氏の著作にはまり、遅ればせながら井上ひさし研究会にも入会しました。これからは二人の郷土の偉人について学ぶことを遊びとしてさらなる人の縁を楽しみにしながら、医学との「半遁」をめざしたいと思います。



加藤　光広（かとう　みつひろ）

小児科医

1963年生まれ。山形県川西町出身。小松保育所、小松小学校、新山中学校、米沢興譲館、山形大学卒業。高校３年時の進路面談において地元で働くことを最優先し工学部から医学部に突然進路変更して担任を呆れさせる。他科の消去法と当時の教授の人柄と人格に憧れ小児科医に。当初新生児医を志すも、難しくて一番避けていた小児神経学を一念発起して勉強するため鳥取大学、北九州市立総合療育センター、国立精神・神経センター（現国立精神・神経医療研究センター）で研鑽。山形に戻ってすぐ全国規模の小児神経症例検討会（蔵王セミナー）を起ち上げ毎年冬に開催。2001年から2年間シカゴ大学人類遺伝学講座留学。2015年から昭和大学医学部に異動し、現在小児科教授、昭和大学病院てんかん診療センター長。国際小児神経学会理事、日本小児神経学会理事。2008年日本人類遺伝学会奨励賞、2009年日本てんかん学会 JUHN & MARY WADA 奨励賞、2011年日本小児科学会学術研究賞、2019年てんかん治療研究振興財団研究褒賞受賞。

手紙の束

菊池　暁子

月いちぐらいの割合で季節の切手を貼った封書が届きます。送り主は15年ほど前、古道に憧れる私が六十里越えのイベントで知り合って以来の友達。酒田市（旧松山町）在住。御年83歳。

手紙の内容は日々の生活のひとコマ。その文章の何と生き生きとして色鮮やかなこと。ご先祖や周りの方々に対しての感謝の思いがさり気なく綴られてくる無駄のない文章は、どこから導かれてくるのだろうか。嫁いで美容師になり、現役中。文章の類を意図的に書いてきたことは聞いたことがない。

彼女の心を解放しているのは、春は雪の上からまんさくの枝を手折ることに始まり、晩秋の野花摘みまでの野山の散策。

束になった手紙から見たことのない彼女の散歩コースの風景が見えてくるから不思議です。

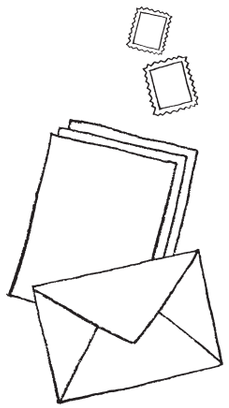
去年、吉里吉里忌のボランティアをさせてもらった話をした（書いた?）ら、朝日新聞の掲載記事を送ってくれた。プラザにも行って見たいとも。こういうレアな反応も私をいたくくすぐるところなのです。

彼女も私が送るものから彼女が感じ取るまに私を受け入れてくれます。それでいいとつき合ってもらえることが何より命の栄養です。

年に一度も会えないけれど、会えば手紙と同じように自然体で安らげる至福の時が待っています。

今日も、もうそろそろかなと郵便屋さんのバイクの音に耳をそばだてている私です。

（南陽市）



劇場の思い出

高橋　英由生

20年以上前、どうしてもミュージカルの本場を自分の目で見たいと思い、安月給を貯めて年に1回ニューヨークに行っていた時期がありました。

現地では、格安チケットを手に入れて観劇し、空いている時間はできる限りあちこちの劇場を見学して回りました。

入口のハデな装飾と巨大看板にさすが〝エンターテイメントビジネスの本場！〟と感動しながら劇場の外観を眺めると、建設当時のままなのでしょうか、入口のハデさとは違った重厚な風格にシビれました。

劇場内は年月を感じさせるつくりでしたが、決して古くさいわけではなく、ちょっとした電灯やそのへんのドアがいちいちお洒落でこちらにもよくヤラれました。

かつて日本にもブロードウェイが誕生した同じ時代に、同じように華やかな劇場街だった浅草六区がありましたが、もし違った過程を通っていれば同じような世界に名だたる劇場街になっていたのかも、なんて思ったものでした。

娯楽が多すぎる現代日本では難しいのかもしれませんが、

「――いつの日かこの国に古典から現代までたくさんの舞台芸術が集まった劇場街ができ、世界中の観光客が色んな舞台を鑑賞する、そんな日がくるといいな――」

と、歳と共にすっかり出不精になった僕は、心だけは劇場に思いを寄せるのでした。（山形市）

2021年　これからの催し物案内

～ありがとう・ごめんなさい・大好き～　**7月3日(土)**

玉城ちはるコンサート

【時間】16:00開演《15:30開場》

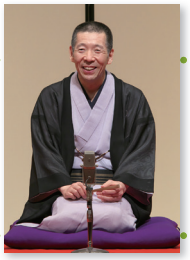
【料金】一般チケット 3,000円／ PLA's会員 2,500円／ 高校生以下 1,000円【会場】プラザロビー

プラザ朗読まつり2021　7月10日(土).11日(日)

子どもから大人まで、好きな文章を「朗読」するイベント。朗読倶楽部「星座」メンバーのほか、参加者を募集。（詳細は後ほど）
【会場】ステージ・ロビー・野外劇場

野外コンサート　**太鼓ライブ　7月31日(土)《入場無料》**

プラザ正面の野外ステージを会場に繰り広げる、和太鼓、ジャンベ、打楽器の夏の共演。（詳細は後ほど）
【会場】野外ステージ



プラザ寄席 vol.36　**柳亭市馬独演会　9月19日(日)**

五代目柳家小さんに入門、平成５年４代目柳亭市馬を襲名。現在落語協会会長を務める名人市馬師匠の独演会。その美声で流行歌でも人気です。（詳細は後ほど）【会場】ホール

©国立演芸場

川西町新庁舎完成記念

山形交響楽団と松川儒フレンドリークラシック　10月3日(日)

２０年以上にわたりフレンドリークリニックを主宰し毎年クラシックコンサートを開催している松川儒（ピアニスト）とオペラ歌手が、山形交響楽団と共演、新庁舎の開庁を祝います。（詳細は後ほど）【会場】ホール

被曝ピアノコンサート　10月7日(木)《入場無料》

被爆地ヒロシマでよみがえったピアノが全国を巡り、平和コンサートが開催されています。【会場】ロビー（詳細は後ほど）

演劇　**グッドピープル　10月23日(土)**

現代アメリカ演劇の傑作。貧困と富裕という格差社会の矛盾を、実力派女優戸田恵子が巧みに表現します。
出演：戸田恵子、長谷川初範、阿知波悟美、他 ／ 演出：鵜山仁（詳細は後ほど）
【会場】ホール

映画**「瞽女 GOZE」上映会　10月31日(日)**（詳細は後ほど）

盲目で三味線を弾く女旅芸人、最後の瞽女小林ハルの苦難の半生を描いた映画の上映会。川西町朴沢でも撮影されました。

パブロ・シーグレル

音楽　アストル・ピアソラ生誕 100 周年記念公演

パブロ・シーグレル・コンサート　12月4日(土)

タンゴの革命児と称されたアストル・ピアソラ。５重奏団最後のピアニスト パブロ・シーグレルが率いるジャズ・タンゴ・アンサンブルのコンサート。パブロ・シーグレル（ピアノ）、北村聡（バンドネオン）、西嶋徹（コントラバス）、鬼怒無月（ギター）、ヤヒロトモヒロ（パーカッション）【会場】ホール

編集後記

アマビエを描き始めて早１年が過ぎました。川西町フレンドリープラザの特色を出そうと、「井上ひさし」さんとお揃いの丸メガネをかけさせプラザのアマビエは誕生しました。こんなに長く描くことになるとは思ってもみませんでした。アマビエもすっかり四季の行事を満喫しております（笑）。描くのは楽しいけれど、なかなか終わりの見えないこのコロナ時代…。早く日常が戻り、文化もスポーツも大いに楽しめることを祈るばかりです。（仁科）

発行：川西町フレンドリープラザ　〒999-0121 山形県東置賜郡川西町上小松 1037-1　TEL 0238-46-3311　FAX 0238-46-3313　URL：https://www.kawanishi-fplaza.com　E-mail：info@kawanishi-fplaza.com
2021 年５月発行　通巻第７２号　阿部孝夫 / 栗田政弘 / 平田和雄 / 遠藤敦子 / 小関麗子 / 鈴木望友 / 宮田宗一郎 / 米野哲郎 / 仁科亜沙子 / 林俊宏／井上恒